

平成27年

目黒区教育委員会

第25回定例会会議録

(平成27年7月7日開催)

第25回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年7月7日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	木村 肇
	教育委員会委員長職務代理者	小村 恵子
	教育委員会委員	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	教育指導課長	佐伯 英徳
	教職員・教育活動課長	濱下 正樹
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

- 委員長 それでは、第25回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。
 本日の欠席職員は学校施設計画課長です。署名委員は笹尾委員
 です。
 ただいま、傍聴の申請がございましたのでお諮りいたします。
 傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 委員長 それでは、傍聴を許可することといたします。
 なお、以後の傍聴の申請はその都度許可することとし、委員の
 皆様にはお伝えすることはいたしません。
 それでは日程第1を議題とします。

(日程第1 平成28年度使用目黒区立中学校教科用図書採択について
 (協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 ありがとうございました。
 ただいま説明にありましたように、本日は国語、書写、数学の
 協議をしたいと思います。
 本日は手順としまして、各委員の皆様は数社に絞っていただき
 ます。8月4日の本委員会で上位数社を検討して、1社に絞ると
 いう手順でいきたいと思います。
 まず、それでは、皆さんのお手元にあります学校調査報告書と、
 調査研究委員会報告書を事前に読んできていただいていると思
 います。その結果を踏まえまして、一人一人の委員にお考えを伺
 いたいと思います。

 なお、進行の都合上、会社は実社名ではなくて、こちらで決め
 た呼称欄の記号で話を進めていきたいと思います。

 それでは、国語から協議します。

- 委員 私は、国語については3社に絞りました。
 一つはA社です。A社はバランスがよくとれているということ
 と、作家と作品、読書案内、あるいは読書への招待といったコー
 ナーがあって、読書に対する興味に非常に深く対応できるのでは

ないかと思いました。それから、古典の扱い方がとてもきれいで、見開きになっているページで、当時の絵が載っていて、古典に接するときの興味をすごく引くのではないかと思いました。

それから、次はB社です。B社も古典の扱い方がとても丁寧な気がしました。取り上げている題材が個性的という話もありましたけれども、こういう捉え方があっていいのではないかと思いました。

それからF社です。これは非常に全体的なバランスがよくとれているということと、資料編がとても充実していて、学習が進んだ子どもも十分使えるし、そういうところでも非常に興味があると思いました。

以上です。

○委員

私が基本としましたことは、小学校時代にこの教科に苦手意識を持った子どもたちが、中学校の教科書に出会って、どう変化するかということを考え、そういった視点で選びました。

私が選びましたのはC社、それからX社、それからF社の3社です。私が一番理解しやすかったといえますか、苦手意識を持った生徒が、変化するきっかけになるような教科書という視点で捉えましたが、F社のものです。

苦手な生徒でも、書かれている到達度などを自分で記入できるような配慮をされた教科書になっていると思います。そういう意味では、苦手な生徒が変化するきっかけを与えられる教科書ではないか。特に声を届けるとか、それから書きとどめるとかといったところに書かれている内容がそういう意識になりました。

それから、X社ですが、これは、声を出そうというのが16ページにありますけれども、この中で特に国語に苦手な意識を持った子どもたちが声を出そうという欄がありますけれども、その中に中学で学ぶこと、深めること、そういった整理を、これは苦手な子でもしやすい、そういうような配慮がされているという印象を受けました。

それからC社です。C社は学習目標の表現がやや難解かなと思いました。人物描写の場面展開について理解に時間がかかるかなというような印象を受けました。

私としましては3社に絞り込みました。

以上です。

○委員

私は国語の教科書を見ると、平成26年度の目黒区の学力

調査と意識調査のクロス集計の中で、自分の思いや考えを積極的に話しているかというところで、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」、「どちらかといえばそうしていない」の中で、「どちらかといえばそうしている」という割合が区の平均でいうと全国よりも低いというのが、学年問わず見られたことと、評定が低い生徒こそ「どちらかといえばそうしていない」というのが、全国平均よりもかなりパーセンテージが上回っているということもあって、やはり読む、書く、話すの領域のバランスも見ましたけれども、表現活動やグループでの話し合い、自分の意見を話す、考えを積極的に発表する、そういったことに重きを置いて見てみました。

そこで私が選びましたのは、C社とX社とF社です。C社はまず1年生の表現というところで、書くことという教材が、レポートやリーフレット、それから鑑賞文、意見文、グループ新聞と豊富であったように思いました。

それから、2年生のところでも、156ページに、詩を読んで思い描いた情景や印象を交流しようとするのですが、そういった自分の思った感想をお互いに話し合うのですとか、さらに学びを広げようというところで、作品にふさわしい読み方をグループで考えようということがあり、いろいろな話し合いを自分の考えでグループで話すという場を、多く設定しているように思いました。

それから、3年生のところでも、66ページにブックトークを紹介しているのですが、読書に関しても意識として、やはり1冊程度読む生徒がとても多く、4冊以上読む生徒というのは一定数いるのですが、やはり読書に関しても少し、朝読書とかもしているので、月1冊程度読む生徒が多いと思うのですが、やはり読書ということも考えますと、そのブックトークというのは読書活動の深まり、自分自身の深まりもあるとともに、紹介するというところで、相手を納得させるための効果的な表現を学ぶことにも適していますし、その先にビブリオバトルという発表者が順番に本を紹介して、ディスカッションし合うというようなものも紹介しているので、そういった発表をしたりとか、自分の考えを話すという項目がとても多く感じたのがよいなというふうに思いました。

それから、巻末に読み方を学ぼうという表がありまして、1年

生だと説明文の基本構造ですとか、人物の相関図、それから2年生が段落の大小というふうに、段階的にわかりやすく表になっていることも、学習を定着させる工夫ではないかなと思いました。

X社は、まず中学校1年生の一番最初のところに、30ページですけれども、相手にわかりやすく伝える方法ということで、自分の意見を伝えるということに重きを置いた項目がとて多いです。アイデアの出し方ですとか、それから3年生だとブレインストーミング、マッピングの紹介、それからKJ法ですとか、ほかの学年でも、司会や書記の役割、話し合いの流れも丁寧に書いてあって、自分の意見を述べる、考えを話す、そういった思考力、判断力、表現力を養う工夫という項目がとて多く、どの教科書もありますが、より例がたくさん載っていて、よいと思いました。

それからF社は、まず中学校1年生の最初に、小学校から中学校への流れとして、小学校の教科書に出ていた詩が載っていて、やはり目黒区の小・中連携というところでも、移行を促す工夫がなされていると思いました。それから日常生活の関連した例をとてたくさん取り上げていて、他教科にも応用できる技能が身につく工夫がなされていることと、話す、聞く、そういった地域や社会の中で、話題になった事柄から課題を見つけて、グループで提案を求めるとか、そういったやはり自分の意見を話す場というもの、グループディスカッションをたくさんいろいろな場面で設けられている工夫が多いと感じました。

以上です。

○委員

それでは、私の基本的な考え方といたしましては、平成20年度の学習指導要領改訂に沿いまして、検討してまいりました。一つは学習指導要領に掲げる国語科の目標というのがあります。ここが全ての原点だと思っております。

この中では、あえてここで言う必要もないかも知れませんが、国語を適切に表現できるかどうか、そして正確に理解する能力を育成できるかどうか、それから伝え合う力を高めるように工夫されているかどうか、また思考力や想像力、そういったものを養うよう工夫がされているかどうかということ、基本に据えております。こうしたことを通して国語に対する認識、理解を深める教科書となっているかどうかという観点でございます。

そういった観点から検討した結果、順不同になりますけれども、一つはF社です。

F社については、話す、聞くの領域では、例としまして、日常の生活に関連しておりまして、他の教科にも応用できる技能が身につく工夫がされていると思っております。それから表や図を効果的に使用した文章が取り上げられておりまして、生徒に身近な話題が取り上げられており、興味を持ちやすいと、そういう工夫がされているというふうに思いました。それから巻末にも特徴がありまして、説明的文章を読むための折り込み資料では、文学的な文章と説明的な文章を読む際の要点が記載されている点が、特筆されると思っております。

それから2社目は、A社です。A社については、話すこと、聞くこと、書くことの学習の内容は、実用的なものが非常に多く、わかりやすく工夫がされていると思いました。それから読むこと、この領域では各教材のレベルが高く、読み応えが非常にあるといった工夫が感じられたところです。それから作家や作品、読書案内により、幅広い文学作品に触れることができると感じました。

それから最後にB社です。B社につきましては、読むことの教材後に「学びの窓」といったものがございますけれども、ついた力を確かめようということで、言葉の力、考える力、知識や技能の身についた力を振り返ることができる、こういった工夫については、評価できると思っております。それから「学びの窓」の中に、批評という課題が多く設定してありますけれども、これも学習活動を通して思考力、判断力、表現力を育むことができるという点では、評価できるということで、私はF社とA社とB社ということで、第1次選考を終えております。

以上です。

○委員

私は2社に絞ってまいりました。最初はC社です。C社は一番は学びの道しるべの内容が非常にいいと思います。そして文法が特に他社よりも扱いやすく、練習問題も非常に適切であったと思います。そして、なおかつ各社とも脚注があるわけですが、C社は脚注が一番充実しておりまして、そういう面でもC社がいいと思いました。

もう一つはF社です。皆様はもう全員選んでおられるので、追加は少なくします。とにかく苦手な方が取り組んでも取り組みやすい、それから発展的な生徒にとっても、発展をさらに促す内容になっているなど感じまして、先ほどのC社の次ぐらいに脚注が、私は充実していると感じております。私はC社とF社で第1次選

考をいたしました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、C社とF社の2社を採択候補とすることでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではC社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思っておりますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は書写について協議します。

○委員 私は3社に絞りました。

一つはA社です。これは版が少しほかのものに比べて大きいということが特色としてあって、大きくて見やすいというところがあります。それから、やはり内容については、資料が豊富で内容も充実しているということがあります。それから振り返ろうという項目が見通しを持って学習できるというところも非常によいと思いました。

それから次はX社です。X社はとてもシンプルな印象を受けました。そういうところから使いやすいということと、巻末のところにもいろいろな工夫がされていて、書式の教室というところが、社会に通用するような手紙やはがき、のし紙の書き方、原稿用紙などをまとめて、丁寧に書いてあるところもよいと思いました。

それからもう一つはF社です。これは最初に小学校から来て、楷書の練習から入って、行書に行くというようなつながりが非常によく捉えられていて、こちらにも非常にバランスがよくできていると思いました。

以上です。

○委員 私は、国語の教科と密接に関係あるということと、先ほども申しましたように苦手意識という意味では振り返り、ここにかかなりの工夫がされているということを重点的に見させていただきました。その結果として、C社、X社、F社の3社です。

振り返りのところで、苦手意識を持った子どもたちがじっくりと取り組めるというところや、絵の表現、写真の入れ方といったところで工夫がされているということに重点的に選ばせていただきました。

○委員 どの教科書もとても見やすくわかりやすく、書き順なども丁寧

でしたが、やはり国語の教科書と連動したほうがよいのではないかということを思いますので、私はC社とF社がよいと思います。

以上です。

○委員

それでは、私の選定の考え方については先ほどと同様に、平成20年度の学習指導要領の改訂に沿って、書写において育成する能力は何かというと、やはり文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つよう、内容や指導のあり方の改善を図ることが目標にあるわけですので、その観点から検討いたしました。

まず、順不同でございますけれども、第1社目はF社です。日常生活や学習の内容が、目黒区を中心とした教育課題とリンクしているように感じられました。それから日常生活に応用しながら学習の定着を図ることができる、そういった工夫がされていると思っております。日常の書式のところでは、学習したことと日常生活の関連がなされている点や、写真をできるだけ多く挿入しており、書くときの姿勢、筆記用具の持ち方の説明が大変わかりやすいと。

他社もいずれも同じように工夫がなされていて、なかなかここは選択が難しいところではありましたが、やはり国語と書写というのは、ある意味一体的な要素もあるのかなということで、まず第一にF社を選定しました。

それから2番目としましては、C社です。C社につきましては、冒頭のところに付きたい力を確かめようということを提示しておりまして、指導者それから学習者が、そこで身につける力について確認できる、そういった工夫がなされている。参考資料等についても工夫がされている。また、資料編といった点についても充実しているので、F社とC社です。

○委員

私は少し違いまして、5社とも本当に自分が書写をしてみるという立場になると、本当に差は余り感じませんでした。少し差異を感じたのはB社ですが、例えば私は今でも筆順がめちゃくちゃなんですけれども、そういう筆順に対しての丁寧なアプローチ、そして書くときにどのようにすればこの文字は美しくなるかというポイントなどを非常に丁寧に書かれているので、私はB社がいいと感じました。

もう一つはやはりF社です。F社は資料、字典としても使えると思います。同じように、例えば全てに当用漢字の楷書、行書が

載っているわけですが、F社に関しましては2, 336字と載せている漢字が一番多い。そして書写事典としても使えるということで、私は皆様の意見プラス資料機能、字書機能としてF社を選ばせてもらいました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、C社とF社の2社を採択候補とすることでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではC社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思っておりますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は数学について協議します。

○委員 なかなか絞り切れなくて、私は4社を選んできました。

最初はA社です。これは見た印象ですけれども、非常に淡い色を使っていてきれいだという印象がありました。それから取り上げ方として、間違い例というのがあり、間違っていることを数学的に説明するのはなかなかおもしろいと思いました。それから、ノートの記載のところでも、非常に特色があって、これは参考になるのではないかと思います。

それから2番目としてはB社です。これは黒板に数式を書いてあるというところがとてもきれいな、わかりやすく表示されていて、見た感じが非常にシンプルでわかりやすいと思いました。それから補充問題プラスワンという形で、補充問題が設定されているということも評価できました。

それからC社です。これは問題が少ないということだったんですけれども、それについてはトライ、クローズアップというところで補充もできますし、発展的な問題にも取り組んでいるということで、それほど問題が少ないということは、マイナスにはならないのではないかなと思いました。

もう1社はF社なんですけれども、これは非常に問題数が多くて、問題を解くという意味で基礎力をつけていくという面では、C社とは対照的ですけれども、これはこれでいいのではないかと思います。それからF社の場合は、1年の学習の進め方がとても丁寧にされていて、1年に入ったときにどう感じるかという面では特色があるし、丁寧につくられていると思いました。

ということで、A社とB社とC社とF社です。絞り込んでなくてすみません。

○委員

私は3社に絞りました。最初の取りかかりという意味で、初めの第1章のところ、それからやはり数学の場合、最初に子どもたちが数学嫌いになるおそれのある場所で方程式のところ、この2つを中心に比較させていただきました。

B社の場合、14ページに言葉の意味が書かれているんですが、ここに歴史を意識させるような表現があったということは、数学が苦手であっても歴史系が好きな子どもには気がつくような表現がされていて非常にいいなと思いました。それから97ページで、等式の成り立ちの解説があるのですが、書き方が苦手な子向きになっている。といいますのは、ほかの教科書に比べると、理解しやすい表現になっているというところがありました。

もう一つはやはり苦手な子どもたちにも、ストレートに届くような教科書の使い方などの表現が、4ページで見られました。それから8ページにノートのつくり方があるんですが、これは各社ともにありますが、コンパクトにB社の場合は書かれておりました。

それからもう一つ、数の大小という説明が17ページにありまして、ここでつまずきということを考えますと、ここでの読み方、これが子どもたちにつまずきを生じさせるのではないかというのがあります。この数の大小のところ、言ってみれば国語の問題になるのですが、センテンスごとに文章が完結するような書き方がB社にあります。これはつまずきをなくす工夫という意味でよかったですと思います。

それから次がX社です。これは振り返りのところの表現がいいと思ったのですが、B社と比べますと、振り返りのチャンスが少ないという印象を受けました。先ほどの文章の読み方という意味で、数学が苦手な子どもたちが、この教科書に書かれている文章の表現と下の表の表現、これが結びつかない子どもたちがいるのかなと。要は上の解説と下の表の中身が結びつかないので、表現が難しいという印象を受けました。ただ、ほかの教科書に比べると、少し内容が高いと思っております。

それから残りがF社です。F社はそれなりの工夫がされておりますので、私としては評価は高かったのですが、B社と比較しますと、82ページで方程式の等式の成り立ちの解説が、や

はりつまづく子どもたちがいるのではないかと思いましたので、その成り立ちの解説が若干B社に比べると少ないという印象を持ちました。

○委員

私も4社にしました。A社、F社、Y社、H社です。

A社はまずノートのとり方が一番最初に載っているんですけども、どの教科書にもありますが、一番丁寧に書いてあるように感じました。特に中学1年生の小学校から中学校に上がるに当たって、ノートのとり方というのはとても大切なので、こうやって丁寧に書いてあることはとてもよいなと思いました。

それからページの脇に確認と確かめという確認事項が、どの教科書にもあるのですが、目黒区の学力調査と意識調査のクロス集計の中でも、中学校1年生や中学校3年生は問題が解けなかったときに、なぜ解けなかったか振り返って考えようとしているというところで、「どちらかといえば考えようとしている」というパーセンテージが、全国平均よりも低いですし、苦手なお子さんは、「どちらかといえば考えようとしていない」が平均より高いというところもあるので、やはりそういった振り返りですとか確かめ、学習の定着が図られるような工夫がなされているものがよいなと思って選びました。特にA社は確かめと確認事項がページの中に頻繁にあるように感じました。

あと、思考力、判断力、表現力などを育むための工夫というところで、数学の窓、考えてみようという項目が各学年に入っているのですが、それは活用の問題もあり、また説明しなさいというような欄もあるので、表現力なども養う場になります。それからさまざまな考え方を話し合える題材も多かったのも、やはり自分の考えを伝え合う言語活動もできる工夫がなされていると感じました。

それから基本的な問題と基礎的な問題、応用問題もあるので、習熟度別ということにも対応しているなと思いました。

F社は、導入の部分で身近な課題を取り上げて、興味、関心を高める工夫があるということと、それから別冊でも各単元の内容を深める構成になっているので、やはり興味、関心が一層深まるのではないかと思いました。また、事前に学習した内容を、例えば中学校1年生だったら小学校6年生のときの内容ですとか、中学校2年生だったら中学校1年生の内容で、学びをつなげようというところで振り返りができますので、特に中学校1年生のとき

は小・中連携というところで、スムーズに移行できるような工夫もなされているように思いました。それからみんなで考えようですとか、みんなで話し合ってみよう、自分の言葉で伝え合ってみようという言語活動を取り入れた授業も、取り組みやすくなっている工夫がなされていると思いました。

Y社は基本的な問題、例題の後に練習問題があつて、その後に確かめよう、考えよう、それから章末にも段階的に問題が構成されているので、基礎内容の定着が図られる工夫があるように思いました。それから巻頭には小学校の内容を振り返るページがあつたり、巻末にも今まで学習したものを振り返る復習問題と、発展的な問題もあるので、習熟度別の少人数授業を行うに当たっても、さまざまな生徒に合わせた問題の選択をすることができる工夫がなされているように思いました。

H社は基礎的、基本的な知識、技能を確実に習得させるための工夫というところで、特に1年生での教科書は各章の前に小学校の復習ができるようになっていて、算数のいろいろな復習があり、中学校の内容になっています。やはりここも小・中の円滑な流れになるような工夫がなされているので、よいと思いました。それから数学の探検というところでは、学習内容に関連した課題を設定して、また生活に促した内容もあるので、興味、関心を引き出す工夫がなされていると思いました。ページの脇には、チャレンジ問題と繰り返し練習があるので、これもやはり習熟度別に対応できるし、基礎がしっかり身につく工夫がなされているように感じました。

○委員

それでは、私は3社を選考しております。F社とA社とB社です。選考の基準としましては、先ほどの2科目と同様に、学習指導要領改訂のポイントに合致しているかどうか、そういった観点から選考してまいりました。

学習指導要領の改訂のポイントとしては、大きく4つに捉えております。一つは発達や学年の段階に応じた繰り返しによる指導、こういったものが充実するように、工夫がなされているかどうかという点が一つです。

それから2点目は、大きく3つの領域構成として、数と式、それから図形、数量関係、こういった大きな3つの領域構成から、さらに発展、相互に関連して発展的な学習になるように、工夫がなされているかどうか、それから3点目は、生徒が学ぶ意欲を高

めたり、学ぶことのできる意義や有用性を実感できるようにする
ような工夫がなされているかどうか、4点目は言語活動や体験活
動の指導が行われるようにするための、数学的な活動を具体的に
示されているかどうか、この4点から検討を進めてまいりました。

順不同でございますけれども、F社につきましては、まず計算
では例題、問い、練習問題とスモールステップというところで問
題が用意されている点は、工夫されているなと思います。

それから繰り返し学習で学力の定着が図られるよう工夫がなさ
れている点がございます。それから学びを生かす課題が、別冊に
なっており、使い方にもよるかと思っておりますけれども、これは知識
をさらに深めていく、発展させていく、そういった工夫ができる
のではないかと評価をしております。

次にA社につきましては、問いの横に計算練習ができるよう、
問題が用意されておりまして、段階的に技能を習得させる工夫が
されている点が、評価できる点でございます。それから章の中の
学び合いのページでは、さまざまな考え方を話し合える題材が用
意されておりまして、互いに考えを伝え合う活動ができる工夫が
されていると思われました。写真や挿絵が積極的に使われておりま
して、そこから問題を解く流れになっている点については、工夫
がされているなと思われました。

それから最後にB社ですけれども、B社につきましては、学習
でついた力を確かめる、こういったことが示されている点につい
て工夫がされていると思われました。学習活動を通して思考力、判
断力、表現力を育むことができるということで、これは基礎・基
本的な知識、技量の習得に加えた、新たな学習指導要領に基づく
点だと思っております。

○委員

私自身もかなり選考に迷いまして、各社非常に工夫がされてい
ます。その中であっても、同じ指導要領に準拠していても違うな
と思ったのは、例えばB社は、明らかに上級者志向でありますし、
X社に関してもやや上級者志向であります。H社は、本当に基礎
に重きを置いていると感じました。

その中で私は、A社とC社とF社を選ばせてもらいました。A
社に関しましては、やはり数学は積み重ねが重要ですが、A社に
関しましては、非常に復習しやすい構成になっていると思ひまして、
幅広い生徒に対応できると感じました。

C社に関しては、確かめよう、自分の知識をもう一度確認しな

がら次に進めるという、どの会社もそういうところはあるのですが、その中でしっかりできていると感じました。

それからF社に関しましては、やはり振り返り、それから鍵ということで、非常に大事なことをもう一度再確認されるシステムが一番しっかりしている。分冊になっていること自体がメリットでもあり、管理の上ではデメリットかなとも思いましたが、A社、C社、F社を選ばせてもらいました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、B社、F社の3社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、B社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思しますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

ここで議事の都合上、暫時休憩にしたいと思います。

(午前10時26分、休憩入る)

(午前10時28分、休憩終わる)

○委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成26・27年度青少年委員の欠員補充にかかる委嘱について
(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 上目黒住区が欠員のままとっている原因は何でしょうか。

○説明員 これまで青少年委員としてご活躍いただいていた方が、ご都合により辞職されまして、その後任の方を、住区の会長が一生懸命探してくださったのですが、なかなか青少年の育成者がいらっしやらないということで、今の時点では推薦が難しいとのことでした。一生懸命探してはいるのですが、結果的に推薦できない状況であるということでございます。

○委員 直接は関係ないのですが、やはり上目黒小学校ですとか、全ての子どもの教育にかかわる雰囲気づくりというところで、上目黒住区は特に重点を置いていただきたいと思っているところなので、ぜひ早急に欠員補充をお願いできればと思います。

○委員 今回4名の委員を新たに委嘱する段取りに至ったことについては評価をしますけれども、今現在新たに4名増えて、まだ10名欠員があります。1人欠員のところは、やはり1人に負担が大きいかかってしまうということもありますし、2人体制が望ましいという基本的な考え方に立ち返って、今欠員のところについては、さらに補充に向けて各関係者と十分に協議を進めながら、取り組んでいただきたいと思います。

○委員 本当に青少年委員の方たちは地道な活動をされていて、例えば我々も体育祭に行きますと、必ず草の根のようにそこにおいでになって、盛り上げておられるという、本当頭の下がるお仕事なんです、ぜひ補充のほうよろしく願いいたします。

○説明員 委員の皆様のご指摘を踏まえ、今後とも、欠員の補充を働きかけてまいります。

○委員長 その他ご質問等ございますか。

○委員長 特にないようですので、この報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 自然宿泊体験教室における給食の放射性物質検査の実施について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 例えばこしひかりに200ベクレル検出した。200ベクレルといいますと、全部食べたとして、1マイクロシーベルト被曝することになる。

すると、1年間の許容線量が1ミリシーベルトと、世界に類を見ない厳しい基準を、厚労省が作ったわけですがけれども、その1ミリシーベルトに関しても、やはり200ベクレルのものを全食したとして1マイクロシーベルト、つまり1000分の1に満たないんだというお話をあわせてしていかないと、いつまでたっても不安が消えないということもあるので、どのくらいの放射線が本当に危険なのかということをお話して、少しずつ知識の普及を

図っていくということも必要であると思います。そうでないとずっと永遠に、この検査をしていかなきゃいけないということが続くというふうにも感じられますので、そういうことも少しずつ普及していくことが大事かなと。これは意見として言わせていただきました。

- 委員長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですので、この報告を受けました。
 以上で本日の定例会を閉会いたします。

(午前10時39分閉会)